



第49号

梅苑会報



福島県立福島高等学校

創

立からゝ2度目の還暦を
を迎えようとしている

福島高校。今年10月6日（土）、
とうほう・みんなの文化セン
ター（福島県文化センター）で
記念式典が開かれる。記念講演
として、平成25年にNHKで放
送された朝の連続テレビ小説
「あまちゃん」の音楽を担当し
た大友良英氏（高校第30回卒）
を予定している。

平成23年、我々が決して忘れ
ることのない東日本大震災が起
こった。福島高校の校舎も大き
な被害を受け、第三・四棟が建
て替えられたことは、『梅苑会
報第46号』でも紹介したが、福
島高校のシンボルとも言おうべき
心字の池も被害を受けた。一昨
年、福島県立福島高校の有志（昭
和46年度卒）の方々から「希望
の桜」をいただき、心字の池の
辺に植樹したことは以前（『梅
苑会報第48号』）にも紹介した
が、心字の池自体の修復は行わ



往時の心字の池

創立120周年に向けて



希望の桜

れていなかった。そこで、今回
の記念事業の一つとして、この
心字の池の修復と周囲の整備を
計画している。年内には完成予
定で、同窓生に生まれ変わった
福高のシンボルを見ていた
だけることを心待ちにしている。
校歌に謳われている梅高の精
神が今後も受け継がれていくこ
とを期待したい。

column

「岩手・青森」の歌枕を一冊に

福島市在住の若槻健夫さん（高14回卒）は歌枕をまとめた新書
「蝦夷（えみし）・陸奥（みちのく）・歌枕 彷徨其の四 岩手・
青森編」を刊行した。福島編（2007年）、宮城編（2009年）、
山形・秋田編（2013年）に続き、東北地方シリーズを完結し
た。各編とも古歌に詠まれた名所・旧跡を巡り、各所の歴史やい
われ、写真を掲載した。4冊合計で約180カ所を調べた。
母が古歌に親しんでいたため歌枕に興味を抱き、定年退職した
2002年から調査を始め、約15年かけてまとめあげた。北関東
や新潟の歌枕も巡ってホームページで紹介しており「東京や大阪
も歩いてみたい」と話していた。

各編ともA5版、222〜413ページ。
問い合わせ 民報印刷（電話024・594・2170）



現在の心字の池



平成30年度予算書（29年9月1日～30年8月31日）

平成30年度 一般会計予算書

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	687,112		
(2)入金金	945,000	卒業生（315名×3,000円）	
(3)年会費	2,915,000	卒業生（315×1,000円） 同窓会会員（約1,300名×2,000円）	
(4)雑収入	30,000	利息、寄付金等	
(5)繰入金	500,000	母校後援会会計より	
合 計	5,077,112		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,670,000	
(1)総会費	680,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,680,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	30,000	
2.運営費	895,000	
(1)会議費	200,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	5,000	振り込み手数料他
(3)交際費	100,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員饗別、その他
(4)庶務費	20,000	
(5)通信費	40,000	切手、葉書代
(6)旅 費	500,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑 費	30,000	
3.予備費	512,112	
合 計	5,077,112	

項目間の流用をお認め願います。

平成30年度 母校後援会予算書

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	8,250,930		
(2)会費	1,250,000	卒業生(315名×1,000円)、同窓会会員(約650名)	
(3)雑収入	1,100	利息等	
合 計	9,502,030		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	500,000	HP更新、母校への助成等
(2)部活動助成	500,000	全国大会出場の一部への激励金
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	
(4)会員名簿管理費	710,000	H29年度
(5)予備費	7,292,030	繰入金等
合 計	9,502,030	

項目間の流用をお認め願います。

平成30年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	3,241,610		
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	50	利息等	
合 計	3,741,660		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	200,000	
(2)予備費	3,541,660	
合 計	3,741,660	

平成30年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計予算書

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	2,255,017		
(2)同窓会梅基金	650,000	同窓会会員（約460名）	
(4)雑収入	100	利息等	
合 計	2,905,117		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)飛び梅交際費	400,000	交際費、接待費、諸経費等
(2)飛び梅管理費	40,000	肥料・消毒代等
(3)予備費	2,465,117	
合 計	2,905,117	

項目間の流用をお認め願います。

平成30年度 一六回奨学会計予算書

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	10,500,044		
(2)同窓会寄付金	0		
(3)雑収入	50	利息	
合 計	10,500,094		

2.支出の部

項目	予算額	摘要
(1)交付金	3,500,000	H30年度交付金（7名）
(2)予備費	7,000,094	
合 計	10,500,094	

平成29年度決算書（28年9月1日～29年8月31日）

平成29年度 一般会計決算書

収入決算額・・・6,102,919円 支出決算額・・・5,415,807円 次年度へ繰越額・・・687,112円

1.収入の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	1,142,911	1,142,911	
(2)入金金	945,000	951,000	卒業生（317名×3,000円）
(3)年会費	2,915,000	3,009,000	卒業生（317名×1,000円） 会員（1,030名）
(4)雑収入	50,000	8	利息等
(5)繰入金	500,000	1,000,000	母校後援会会計より
合 計	5,552,911	6,102,919	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,580,000	3,637,070	
(1)総会費	600,000	679,346	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	2,675,004	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	282,720	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	855,000	1,068,737	
(1)会議費	250,000	195,257	H28年第2回、H29年第1回役員会
(2)事務諸費	5,000		振り込み手数料、文員費
(3)交際費	150,000	85,000	関東・みやぎ梅苑会参加費、転出者饗別
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	50,000	36,116	往復葉書、切手
(6)旅 費	250,000	752,364	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.会員名簿管理費	710,000	710,000	H28年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,209,792	0	
合 計	6,354,792	5,415,807	

平成29年度 母校後援会決算書

収入決算額・・・10,240,870円 支出決算額・・・1,989,940円 次年度へ繰越額・・・8,250,930円

1.収入の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	8,994,793	8,994,793	
(2)会費	1,500,000	1,245,000	卒業生（317名×1,000円） 会員（638名）
(3)雑収入	1,500	1,077	利息、CD売り上げ
合 計	10,496,293	10,240,870	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,000,000	151,740	同窓会HP開設・更新、タオル・クリアファイル・CDプレス等
(2)部活動助成	700,000	338,200	全国大会出場助成等
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	
(4)太宰府梅基金積み立て	200,000	0	
(5)予備費	9,169,582	1,000,000	一般会計への繰り入れ
合 計	11,569,582	1,989,940	

平成29年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書

収入決算額・・・3,698,513円 支出決算額・・・456,903円 次年度へ繰越額・・・3,241,610円

1.収入の部

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰越金	3,198,487	3,198,487	
(2)積立金	500,000	500,000	母校後援会会計より29年度分
(3)雑収入	300	26	利息
合 計	3,698,787	3,698,513	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)修繕費	200,000	456,903	梅苑会館修繕費（布団代、冷蔵庫代）
合 計	0	456,903	

平成29年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額・・・2,682,715円 支出決算額・・・427,698円 次年度へ繰越額・・・2,255,017円

1.収入の部

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰越金	1,450,702	1,450,702	
(2)積立金	200,000	0	母校後援会会計より
(3)同窓会梅基金	900,000	632,000	同窓会会員（458名）
(4)雑収入	100	600,013	寄付金、利息
合 計	2,550,802	2,682,715	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)飛び梅交際費	400,000	383,734	旅費、接待費、諸経費
(2)飛び梅管理費	40,000	43,964	額代、消毒代
(3)予備費	2,110,802	0	
合 計	2,550,802	427,698	

平成29年度 福島高校同窓会一六回奨学会計決算書

収入決算額・・・12,500,044円 支出決算額・・・2,000,000円 次年度へ繰越額・・・10,500,044円

1.収入の部

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)繰越金	1,000,000	1,000,000	
(2)寄付金	3,500,000	11,500,000	H29年度以降分
(3)雑収入	50	44	利息
合 計	4,500,050	12,500,044	

2.支出の部

項目	予算額	決算額	摘 要
(1)交付金	3,500,000	2,000,000	H29年度交付金（4名）
合 計	0	2,000,000	

本年は福島高等学校創立120周年を迎えます。福島高等学校は明治31年福島県第三尋常中学校として創立され、その後、福島第三中学校、福島県福島中学校、福島県立福島中学校と改称を重ね、昭和23年福島県立福島高等学校となり、現在に至っています。

同窓会、PTA、母校教職員が一体となって実行委員会を立ち上げ、創立120周年記念事業、記念式典等の準備を進めているところですが、実行委員会において協議の結果、母校前庭に設けられた「心字の池水」の整備を記念事業として採択しました。

明治41年、皇太子殿下（のちの大正天皇）の来校を光栄に思った生徒、職員は記念事業として「心字の池水」を自分たちの手で作ることにし、生徒が交替で作業に従事して完成した池は「不忘池」と命名されました。「庭には湛ふる心字の池水、穿ちし由来は尊し優し」と校歌に

歌われる「心字の池水」とはその形を示す一般名であり、固有名は「不忘池」とされています（「福高百年史」）。

東日本震災の折、池の給水配管等の設備が損壊し現在まで休眠状態にあるところから、創立120周年を機に不忘池（心字の池水）の再生をはかる事業は意義深いものとなるでしょう。池を中心に周辺の整備も併せて実施する計画ですので、在校生の皆さんにも折々に観賞していただけるものと思います。

昨年を振り返ると、会員の皆様のご理解とご協力により、活発な同窓会活動を展開することができました。心より感謝申し上げます。

5月、第2期「一六回奨学金」奨学生の募集をし、8月には4名が第2期奨学生として認定されました。奨学生諸君にはそれぞれの進路で大いに力を発揮されるよう期待しています。

5月26日には東京グリーンパレスにおいて関東梅苑会総会・

合同同期会が開催され、戸松哲男会長（高校19回卒）はじめ新役員が選任されました。

9月14日にはハーネル仙台においてみやぎ梅苑会総会が開催され、佐藤隆会長（高校15回卒）はじめ新役員が選任されました。

11月24日には福島グリーンパレスにおいて本会総会を開催しましたが、300名を超える会員の熱心なご参加を得て盛会裡に終えることができました。総会に寄せて、本間記念東北整形外科・東北歯科院長本間哲夫氏（高校17回卒）に記念講演をお願いし、膝関節疾患など専門領域の話に加えて福島高校在学中のエピソードも折り込んだ味わい深い講演をしていただきました。

本年10月6日には母校創立120周年の記念式典・講演会・祝賀会を開催します。

120年にわたる母校の歴史を顧み未来を展望しながら、諸共に祝いたいと思います。



平成29年度「福高同窓会総会」が11月24日（金）18時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って本間記念東北整形外科・東北歯科院長の本間哲夫氏（高校17回卒）による「骨と膝と膝」と題した記念講演がありました。膝関節を中心とした手術例等の資料を提示しながら、時にユーモアを交え、熱く講演頂きました。時折映し出された昭和40年頃の福島市内の写真に、出席者から当時を懐かしむ声があがりました。

総会では、物故者への黙祷、会長・校長の挨拶に続いて、各議案の承認、役員改選により渡辺会長の再任がなされました。つづいて行われた懇親会も盛況であり、最後は応援団OBの指揮のもと校歌を高らかに歌い、幕を閉じました。



同窓会会長
渡辺 健寿
(高校第17回卒)

よみがえる 「心字の池水」

関東梅苑会だより

あだ名は「パン屋」

―高校生活について―

毎日、保原町（現伊達市）から自転車かバスで通学していました。自転車は約15キロの道のりを45分ぐらいかけて通っていました。

1年のころのあだ名は「パン屋」でした。午前中に腹が減ると山崎パンの「ソフトフレッシュ」という菓子パンを毎日食べていたので同級生に付けられたものでした。あのころの同級生とは、いまでも飲みに行く大

切な仲間になっています。

入学当初は合唱部に少し在籍していましたが、その後は部活動はやりませんでした。体育の授業で懸垂をやらされ、途中で落っこちるような身の入っていない生徒でした。加えて今はそのうでもないのですが、小中学校時代は吃音があつて、いつもむつりとした無口な子どもでした。祖父からは「言葉ではない。気持ち伝わればいいんだ」といつも励まされていました。福岡に合格したときも「朗読の勉強しろ」と応援してく

れ、朝日新聞の「天声人語」を声に出して毎日読み続けました。しばらくするといやだった現代国語の朗読が上手になりました。でも人と話すのはしばらく苦手でした。多分に精神的なものもあったと思います。

入学してからの学校の成績は450人中200番ぐらいでした。数学なんかも全然できませんでした。1年の担任が数学の川村先生だったのですが、あるとき面談で「僕には数学のセンスがないんです」と話したら激怒されて「巨人の王選手だって練習し

「数学だって練習」。担任の叱咤に奮起 自主性重んじる自由な校風に心地よさ

たからうまくなったんだ。数学だって同じだ。練習なんだ。問題を解いたら、できなくても解答から理解して、それを丸暗記してみろ」と指導されました。それで先生の言うとおりにしたら、いつのまにか数学が得意になったんです。これは母の口癖ですが、「あなたは私に似て頭が悪いんだから、人より努力しろ」とよく言われました。いまでも良いことを教えてくれたと感謝しています。

福岡にはユニークですばらしい先生がたくさんいらっしゃいました。なかでも倫理社会の安斎先生には救われました。好きな哲学の本の感想をまとめる授業で、父に薦められた和辻哲郎の『風土』を読んで自分なりの考察を加えて発表したら、大絶賛してくださいました。この経験は当時の私にとって大きな自信につながりました。

あと思い出すのは「標準テスト」のことですね。いまもそうかも知れませんが、試験監督の先生が解答用紙を配ると教室から出て行って終了するまで帰ってこない。そんな生徒の自主性

や自律心にまかせる自由な校風も心地よかったですね。福岡は生徒にとってすばらしい教育環境だったといまでも思っています。

大学はラグビー一筋

―大学はなぜ農学部を選んだのですか―

進路指導の際に2年と3年の担任だった半沢先生から「おまえは何が得意という科目はないよな。何になりたいのか、まだないだろう?」と言われていました。理学部も頭にありましたが、学校の先生とか学者に興味もなかったので、農学部はつぶしが利くのではという軽い考えでした。

大学に入学してからはラグビーを始めました。動機はたくさんになりましたが、入学時の体重は67キロ。私は背が高いので痩せ型でした。まだ今のようにウエイトトレーニングを導入していない時代でした。でも自分たちなりにトレーニング方法を考えて、100キロのベンチプレ



サッポロビール株式会社
代表取締役社長
サッポロホールディングス株式会社
常務グループ執行役員

高島 英也さん
(高校30回)

スがるまでになりました。

当時、東北地区の大学ラグビーは東北大、東北学院大、岩手大の3校がしのぎを削っていました。インカレの地区大会では岩手大に次ぐ準優勝。全国大会では東京学芸大に12対14で敗れました。でも後半は12対0で追い上げることができました。大学の4年間は勉強も頑張りましたが、ラグビー一筋の学生生活でした。ラグビーから学んだことはたくさんあります。まず身体が強くなりました。走ったり、身体をぶつけるような運動は筋骨や内臓を強くしてくれたと思います。大学時代はちょうど社会人の新日鉄釜石が全盛期で、3年連続で夏合宿に参加させてもらいました。練習は30分間ずっと転がっては立つことの繰り返しのような地道な反復練習です。練習が終わってからの

セルフマネジメントなどは仕事の参考にもなっています。

ビールづくり30年

―サッポロビールに入社したきっかけ―

実家の最寄り駅だったJR東北本線の伊達から仙台に向かう途中、名取の駅前に当社の工場が見えるんです。学生時代のあるとき、一緒に乗っていた母が工場を指差して「あんな会社に行けるといいね」と何気なく話したことがあります。それが現在の仙台工場です。私も2007年から2年間、工場長を務めたところです。もしかしたら、あの何気ないひとことが入社のかっかけだったのかもしれないと不思議な縁を感じます。

社会人生活35年のうち30年がビールづくりの仕事でした。ビールは、簡単にいうと酵母の代謝生産物を味わう飲み物。高い品質のビールを作るために製造現場がすることは、人であるところの酵母の「健康管理」です。大事なことは酵母の食べ物となる原料をいかに吟味するかにかかってきます。大麦やホップの品種改良なども常に求められており、ときには経済合理性に反することもあります。でも

そんな努力が何杯飲んでも飲み飽きないビールづくりを支えています。その秘訣はほとんどが先輩からの口頭伝承。実際、工場では味づくりの作業標準書はないようなものです。創業以来、141年にわたってそれぞれの工場が「おれのビールが一番うまい」と思って味を磨き続けています。

当社の主力商品である「黒ラベル」は発売以来、40年になります。現在もご好評をいただいております。その理由については、競合社も含めてよく質問をいただきますが、「おいしくないからですよ」（笑）と答えています。お正月恒例の箱根駅伝への協賛も1987年以来、今年で32回を迎えました。でも当時から変わらず協賛しているのは当社だけです。ビールづくりはもちろんのことですが、そんな地味で息の長い取り組みがお客様から選ばれている理由だと信じています。

震災復興支援を継続

―東日本大震災では東北地方が被害を受けました。―

サッポロホールディングスでは、震災直後から「次世代育成」「物産品の消費促進」「情報発信」に重点を置いた東北復興支援活

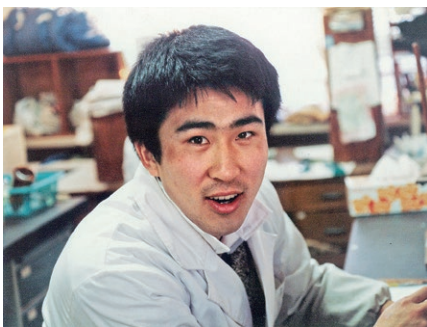


工場での勤務のころ(後列左から4人目が高島さん)

年は郡山において、合同で開催する復興祈念特別演奏会を支援しています。当時福岡で合唱部を指導されていた高麗先生はじめ指導者の育成方針がしっかりしているのでしょう。福岡県の音楽文化はすばらしいと思います。これからもできる限り支援を続けさせていただきたいと考えています。

―最後に福岡後輩へのメッセージをお願いします。―

私は大学生になっても自分が何になりたいかはっきりしない日々が続いて、「このままではいけない」という満たされない悔しさや不安がいつもありました。人生のある局面で適度な不安は必要です。現状に満足すると人は成長しなくなります。今の不満足な自分を素直に受け止めて、むしろ活用するぐらいがちょうど良いと思います。最後に「健康であれば何でもできる」と言いたい。戦中戦後をふんじひとつで頑張ってきた祖父の教えます。



勉強とラグビーに熱中していた大学時代

たかしま・ひでや
1959年生まれ。1975年保原中卒、1978年福岡高校卒、1982年東北大学農学部卒、同年サッポロビール株式会社入社、58歳。

2018年度 関東梅苑祭・合同同期会 スペシャルゲスト

俳優 神尾 佑さん
(高校40回)

【プロフィール】

1970年福島市生まれ。昭和63年福高卒、横浜国大工学部卒。つかこうへい劇団第1期生として『鎌田行進曲完結編～銀ちゃんが逝く』でデビュー。2007年フジ『SP～警視庁警備部警備課4係』石田光男役でブレイクし、数々のドラマ、映画、芝居、CMで活躍中。ヒラタオフィス所属。

【最近の主な出演】

テレビ／TBS『小さな巨人』、NHK『連続テレビ小説 マッサン』、フジ『セシルのもくろみ』、NHK『大河ドラマ 八重の桜』、NHK『大河ファンタジー 精霊の守り人』、テレ朝『仮面ライダー オーズ』、WOWOW『きんぴか』、映画／『進撃の巨人』、『シン・ゴジラ』、演劇／『つかこうへい Triple impact ～初級革命講座・飛龍伝～』、CM／黄桜『生酛山麩』、ネスレ『バリスタアイ』、富士重工業『WRX S4 再開編』ほか多数出演



学生時代
小学校は父親の転勤で福島市内の大森、浜通りの原町、宮城の多賀城と転校し、中学校は1学年13クラスもある信陵中で3年間過ごしました。部活動は中学ではバスケット、福高ではハンドボール部に入りましたが、当時のハンドボール部の練習はとて厳しく、入学したばかりの自分にとっては精神的にも技術的にも心が折れてしまうことがしばしばありました。夏合宿では、福島特有の暑さと盛り沢山の練習メニューからご飯も喉を通らず、挙句の果てに練習中に骨折してしばらく休部することになりました。休部中、仲間からは随分声をかけてもらったのですが、ハンドボール部に復帰することはありませんでした。

その頃は授業のカット制度というものがあり、今でもはっきり覚えているのは、1日の授業が1コマしかなかった日の出来事です。「この授業がカットになれば今日は帰れるんじゃないかね？」という雰囲気になって、授業が始まろうとしている時に何処からともなく「カット!」「カット!」のカットコールが沸き上がってしまい、先生が大激怒し職員室に帰ってしまったことがありました。さすがに級長が青くなつて、職員室で先生に平謝りでお詫びして授業再開となったのですが、物理の授業だったので居眠り者続出というオチ付きの出来事は懐かしい思い出です。

演劇との出会い

福島を脱出したい・東京に行きたいという思いで2回目の大学受験ではなんと合格したのですが、入学して満足してしまいい次の目標を見失ってしまった感じになりました。

2年生の春、高校時代の友達に誘われて見た演劇でカルチャーショックのような衝撃を受け、直ぐ自分の大学の演劇サークルに入部しました。その後、芝居にのめり込んでいたのですが、サークルを立ち上げた先輩たちの卒業でサークル自体が空中分解することになった時、高校の部活のように中途半端で終わりがたくないという気持ちで募り、演劇養成所に通う決意をしました。

就職せずに役者の道に進むことについて、親からは大反対されるものと覚悟していたのですが、意外とすんなり認めてもらいました。後から聞いたのですが、父親は「自分で決めたのだからそれでいい」と言い、母親は「幼い頃からこの子は普通のサラリーマンにならないだろうと感じていた。そうです。」

プロの役者への道

演劇養成所の後に「北区つかこうへい劇団」1期生に応募し、1次・2次試験に合格しました。毎日の稽古が毎日17～23時まであり、稽古中はしよつちゅう怒号が飛び交い、さまざまなダンス練習・アクション練習、あらゆる発声練習を行いました。

そのため帰宅すると汗びっしょりの3～4枚のTシャツを洗濯する生活でした。結果的には4か月後、最後に残ったのは自分を入れてたったの2人。最終審査の後に初めてつかこうへいさんとお会いし、「秋からの福岡での芝居に出て欲しい」と言われて、初めてギャラをもらいました。それまで土日の電気工事作業で月収8万円、劇団の月謝とアパート代がそれぞれ2万円でしたので、初めてのギャラは本当に嬉しかったです。そのギャラで何か月生きていけるだろう!?と思いました。

世間で自分が知られるようになったのは、2007年に放映された深夜ドラマ「SP」です。深夜帯で21%という驚異的な視聴率だったことも話題になりました。それからいろいろなドラマや芝居に出るようになりましたが、見た人から「元氣が出ました」「勇氣をもらいました」などの言葉をいただいた時が役者冥利に尽きますし、もっと頑張ろうと思う瞬間です。

2018年度 関東梅苑祭・合同同期会

- 日時：平成30年5月25日（金）
【受付】18時
【開宴】18時半
- 会場：東京グリーンパレス（麹町）

詳しくはホームページで!

みやぎ梅苑会だより

「広げよう! 親睦と交流の輪を みやぎ梅苑会」 みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

平成29年度みやぎ梅苑会総会が9月14日（木）仙台市青葉区のハーネル仙台にて開催されました。

今年は大学生からご来賓を含む80歳代まで71名の出席者が集い開会いたしました。

総会では上田信洋氏（高43回）の司会のもと物故会員に黙祷を捧げた後、鈴木征夫会長（高12回）が「会員相互の交流を深め、同窓会を盛り上げ、来年の創立120年式典へ協力し円滑に進めたい」と挨拶し議長席に着きました。



議案として①平成28年度事業報告・会計報告および監査報告、②平成29年度事業計画案・予算案、③役員改選が審議され何れも満場一致で承認されました。鈴木征夫会長（高12回）および歌川和夫事務局長（高17回）が顧問に就任され、後任として会長に佐藤隆氏（高15回）、事務局長に菅野剛広氏（高34回）が選任されました。

恒例の懇親会は同窓会の渡辺健寿会長、久米允彦副会長、母校より菅野誠校長、半沢裕介後援会長、赤井畑直明PTA会長、関東梅苑会より戸松哲男会長、島田久事務局長、同窓会本部より中原勝事務局次長、菅野祐智事務局次長、今関達也前事務局長をご来賓にお迎えして開会いたしました。

ご来賓を代表して渡辺健寿会長、菅野誠校長からご挨拶を頂きました。特に校長からは国内外の高校生の交流事業「Hello! F U K U S H I M A

FOODS!」海外の高校生と発信する福島の食」の紙面の配布を受け、文武両面で活躍する母校の生徒の様子を聞きました。

懇親会では、仙台市を拠点に演奏活動をするフリーのチェロ奏者塚野淳一氏（高23回）が演奏を披露されました。福島で養蜂、果樹園を営む佐藤達彦氏（高47回）が梨と蜂蜜を、J R本宮駅前で犬狗酒造を営む小針沙織氏（高58回）が仙台では手に入らない酒を紹介・販売いたしました。楽天野球団に勤務する武石真氏（高63回）が楽天イーグルスグッズを大じゃんけん大会でプレゼントし会が盛り上がりしました。

その後、合唱部OBの西村晃一氏（高28回）、駒場悟氏（高32回）両氏のリードにより出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ、第90代応援団長である佐久間崇裕氏（高41回）のリードにより全員による応援歌とエールにて熱気は更にヒートアップしました。

最後に関口哲雄副会長（高20回）の閉会挨拶で1年後の再会を期し盛会裡に終了しました。

column

梅の香りを胸に秘めて 〜高校4回卒業 佐藤和達氏 初の個展開催〜



平成29年6月2日、7日仙台メディアテークにて絵画個展を開催し、約800人が来場しました。佐藤和達氏は昭和27年3月福島高校を卒業し平成11年東北電力退職後、初めて絵筆をとり「亜流を排し、我流を貫く」をモットーに描いた油絵・水彩・オイルパステル・版画・書など総数53点の作品（風景・人物・心象画）を展示し感動を与えました。

掲載写真の題名「柱礎」（F80号）は第79回河北美術展（主催：河北新報社）にて「力次郎賞」を受賞した作品で、審査員の村田省蔵氏（日展）から「人間を感じるような柱の作り方が面白い。鐘楼の柱を曲げたところに絵の動きがある。黒の使い方がうまい。」と高い評価を受けました。

同氏は平成8年10月に歌川和夫氏（高17回）らとともに発起人となり、昭和42年に母校の創立70周年を記念して設立された「福島高校同窓会宮城県支部」の支部再建にご尽力された方です。

また、同氏から、母校創立120周年を節目に美術愛好サークル「飯村・梅の會絵画会」を作って絵画展を目指したいと抱負を語られておりますので、絵画展出品を希望の方の連絡をお待ちしております。【連絡先：赤間克己（高16回）022-746-5723】

平成三十年度の大学入試センター試験の総受験者数は五十五万四千二百十二人で昨年より六千三百二十人増加した。三年後から開始される「大学受験共通テスト（仮称）」を見据えてか、国語などで複数の情報の関係性を踏まえての判断を求められるといった新傾向の出題も見られた。

全国の科目別平均点では、昨年、大幅にダウンした国語（二百点満点）でさらに二点程度ダウンし、英語のリスニング（五十点満点）では二・六七と過去最低となった。数学は数学Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅲともほぼ昨年同様。理科では大半の理系生が受験する化学（百点満点）が易化し、一方、生物が難化したことで平均点は物理も含め六十点程度となり科目間の差はなくなった。

多くの国立大で必要となる七科目の平均点（九百点満点）は、文系型、理系型ともにほぼ昨年同様になりそうだ。そのような状況の中、本校の三年生は全国平均と比較し文系型で八十点程度、理系型で七十点程度上回る予想だ。

全国の学部別動向は、いわゆる「文高理低」の傾向が続いているが、系統による差も見られ、文系では就職先の選択肢が多様なイメージの強い経済系

の学部での志望が増加し、逆に選択肢が絞られる教育系は減少した。ただし、本校生の志望の多い東北大では文系学部の志願者増加に伴い教育学部でも増加している。理系では理工系は前年並みであるのに対し、農学、医学、看護、薬学系が全国的には減少している。

本校における志願動向だが、国公立では旧帝大を中心とした難関大学や地域拠点大学への出願もほぼ例年通りだった。具体的な出願数については、下記の「入試出願状況」に示す。

東北大の出願数は、前期だけで見るとやや増加し六十三名（昨年五十五名）である。また、福島大は前期で昨年と同じ二十八名の出願。福島県立医科大学の前期は医学部に十一名（昨年六名）、看護学部にも六名（昨年五名）が出願した。近年増加している新潟大への出願も十九名と多い。（昨年は二十四名）。千葉大十六名（昨年は二十一名）、東京大十四名（昨年十名）などが出願数の多い大学といえる。

私立大学では例年通り、東京六大学を中心に青山学院大、東京理科大、日本大学などへの出願も目立っている。また、今年の特徴として立命館大に二十二名（昨年十名）、同志社大学に十三名（昨年五名）を始め、関西地方への出願も目立つ。私立大学の総出願数は現時点で六七五と昨年の六一三を上回っている。

福高の精神である「世の為たれ」の実現に向け、全国津々浦々に美しい梅花を咲かせてもらいたい。

入試出願状況（現役の延べ数・推薦、AOは含まない） 2月6日現在					
項	大学名	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年
国公立大	北海道大	11	16	16	15
	岩手大	3	11	6	6
	東北大	77	59	75	95
	山形大	16	23	34	6
	福島大	69	68	89	63
	茨城大	9	8	17	12
	筑波大	9	18	12	12
	宇都宮大	11	6	3	5
	埼玉大	19	14	13	9
	千葉大	26	31	29	18
	東京大	14	10	10	18
	東京外語大	4	5	3	0
	東京工業大	3	6	3	6
	一橋大	2	0	0	6
	横浜国立大	6	2	8	6
私立大	新潟大	46	52	27	34
	京都大	2	4	6	5
	その他	62	66	44	81
	県立医科大	33	22	28	49
	県立会津大	3	3	1	1
	高崎経済大	14	7	6	9
	その他	21	46	40	33
	東北学院大	16	13	15	3
	青山学院大	28	19	14	23
	慶應義塾大	12	8	14	30
	上智大	4	10	8	2
	中央大	47	66	65	64
	東京理科大	14	21	28	24
	日本大	18	25	26	18
	法政大	68	50	51	48
	明治大	67	58	66	63
	立教大	20	33	19	50
	早稲田大	54	56	40	69
	その他	327	254	269	253
国立大学合計		389	399	395	397
公立大学合計		71	78	75	92
私立大学合計		675	613	615	647
総計		1,185	1,090	1,085	1,136

大学合格者数（過年度卒を含む）					
項		平成29年	平成28年	平成27年	平成26年
国公立大	北海道大	4	6	10	6
	岩手大	5	5	2	4
	東北大	34	40	41	37
	山形大	12	14	12	10
	福島大	36	29	24	21
	茨城大	2	8	4	2
	筑波大	5	6	6	9
	宇都宮大	3	3	0	4
	埼玉大	10	8	5	6
	千葉大	8	12	7	15
	東京大	3	6	5	6
	東京外語大	2	2	2	1
	東京工業大	3	1	0	5
	一橋大	0	0	0	5
	横浜国立大	3	4	2	6
私立大	新潟大	20	16	13	15
	京都大	2	2	3	4
	その他	26	29	26	22
	県立医科大	20	17	15	24
	高崎経済大	2	1	3	4
	その他	18	13	11	5
	小計	218	222	191	211
	慶應義塾大	7	11	14	15
	早稲田大	23	27	20	27
	中央大	35	31	42	41
	明治大	27	27	31	39
	法政大	25	33	25	41
	立教大	14	9	15	17
	日本大	23	18	12	13
	東北学院大	6	7	5	13
	同志社大	4	2	3	7
	その他	239	278	262	239
	小計	403	443	429	452
	準大	2	2	1	2
	短期大学	0	3	1	3
	各種学校	1	4	0	0
	合計	624	674	622	668
就職		3	0	0	0



福島高等学校長
菅野 誠

同窓会員の皆様方には、日頃より母校に對しまして物心両面に亘る絶大なる御支援と御協力を賜っておりまことに心より感謝申し上げます。

さて、今年度も生徒たちは様々な分野で活躍を見せてくれました。運動部では、本県・宮城県・山形県で開催された全国高等学校総合体育大会においてアーチェリー男女個人、陸上競技男子走り高跳び、ソフトテニス男子個人にそれぞれ出場を果たしました。バスケットボールは福島市開催で本校も男子の会場となり、一回戦五試合が行われ、多くの教職員と生徒がスタッフとして携わり円滑な運営を支えました。残念ながら本校のチームの出場はなりませんでしたが、部員たちはプログラムの「昭和二十三年度第一回大会第三位福島高校」との記載を見て先輩の偉業を偲び、目の前の素晴らしいプレーを食い入るようにつめていました。

文化部では、宮城県で開催さ

社会を担う ニューリーダーを目指して

れた全国高等学校総合文化祭の将棋男子個人に出場した二年生がみごと第三位となり、他に囲碁男子団体、梅章委員会、チアリーダー部が出場し、加えて個人として吟詠剣詩舞部門にと多くの生徒が出場しております。梅章委員会は全国高校新聞年間紙面審査入賞により、来年度も続けて出場することが決まりました。同様に文芸部からも出場することになります。

また、囲碁部は男子団体・個人で他の全国大会にも出場を果たしました。さらに、クイズ研究部が全国高等学校クイズ選手権（準々決勝進出）とエコノミクス甲子園に、SSH部が会津大学でのパソコン甲子園に出場しました。

さて、文部科学省が推進するSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業については三期目の指定を受け、今年度からさらに五年間「高い専門性と地域のリーダーとしての資質を併せもつ世界で活躍する科学技術

人材育成」に取り組むこととなりました。これは「梅章の教え」を体現し、「福高での学び」を確立することにつながるものと考えております。

現在、国においては「高大接続システム改革」が進められており、現行の大学入試センター試験に代って平成三十二年度から「大学入学共通テスト」が導入されることも決まりましたが、本校においては平生の授業の充実が勿論のこと、SSH事業やリベラルゼミ等を通して、未来を担う生徒たちが、獲得した知識・技能を活用して、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力や主体的に物事に取り組む姿勢を身に付け、しっかりと羽ばたいていくことができるよう教職員一同力を合わせて努めてまいります。

今後とも、母校に対するより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

部活動成績

福高生、全国で活躍

【陸上競技部】

- 全国高等学校体育大会
男子走り高跳び 吉川介人

【ソフトテニス部】

- 全国高等学校体育大会
個人戦 男子 大内悠生・瀧戸皓斗

【アーチェリー部】

- 全国高等学校体育大会
- 全国アーチェリー選抜大会
個人戦 男子 佐藤健太郎
女子 佐藤実結

【チアリーダー部】

- みやぎ全国総文 2017 パレード部門

【将棋部】

- 全国高校将棋選手権
男子個人 3位 野田大輔

【囲碁部】

- 全国高校囲碁選手権
男子団体 滝田真大・鈴木佑也哉・穴戸友弥

【クイズ研究部】

- Qさま高校生学力王 NO1 決定戦 2017
準決勝進出 高橋昂汰
- 全国高校生金融経済クイズ選手権
菅野菜人・渡辺隆斗

【文芸部】

- 福島県文芸コンクール詩部門
最優秀賞 竹内峻（2018 全国総文出場）

【SSH】

- 全国パソコン甲子園 モバイル部門
本選出場 大内楓・山田明拓・星葵衣
- SSH全国生徒研究発表会
[Mg イオン二次電池の研究]
本田実咲・瓦吹静里香・佐藤昭希
- 化学グランプリ
小場瑛介 東北1位、第50回国際化学オリンピック
日本代表候補内定
- SPBxForbes 企画 Forbes 賞（最優秀賞）
好適環境水班 太田裕亮・紺頼楓・清野颯一郎・西澤亮輔
- 第61回日本学生科学賞 県審査 読売新聞福島支局賞 県代表 全国中央審査
「福島の古代モモ核と古代人流入の関係性」 松山魁・白川大智・谷川朋史・鈴木陽介・菅野友孝
- 第36回福島県高等学校総合文化祭 自然科学部門
第30回福島県高等学校生徒理科研究発表会
ポスター部門 最優秀賞 2018 全国総文祭出場
生物部門 最優秀賞 2018 全国総文祭出場
「アホロートルの変態に関する研究」 齋藤優主・佐藤美優・渡邊彩花・吉川歩夢・山田晟矢

寄贈図書紹介（平成29年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
2017.01.25	法を学ぶ人のための文章作法	山野日章夫, 他	山野日章夫(福高29回卒)	2017.05.11	樟太四〇年の歴史	原師之	全国樟太連盟
2017.01.25	七五調源氏物語 6	中村博	中村博	2017.05.11	七五調源氏物語 8	中村博	中村博
2017.01.25	いっしょに 2016	「いっしょに2016」制作委員会	高松ボランティア協会	2017.05.11	虎の大切な話 2017	経済産業省	福島県原子力安全対策課
2017.01.25	創立七十年学園史	郡山開成学園	郡山開成学園	2017.05.11	まんがスポーツで地域活性化 Vol.1-12	なつき凛, 他	文部科学省スポーツ庁
2017.01.25	不合理性の哲学	中村隆文	福高職員	2017.05.11	図譜・原郷のこけし群 第1集-第2集	未来社	福高職員
2017.01.25	指紋と近代	高野麻子	福高職員	2017.05.11	ふくしまの絆 II	福島県小学校長会	福島県小学校長会
2017.01.25	美の考古学	松木武彦	福高職員	2017.06.01	ピキニ核被災ノート	「ピキニ核被災ノート」編集委員会	齋藤毅
2017.01.25	日本語の謎を解く	橋本陽介	福高職員	2017.06.01	核の海の証言	山下正寿	齋藤毅
2017.01.25	中華帝国のジレンマ	富谷至	福高職員	2017.06.01	脳の神秘を探ってみよう	朝日新聞出版	テルモ生命科学芸術財団
2017.01.25	水の未来	沖大幹	福高職員	2017.06.01	ひまわりが咲くたびに“ふくしま”が輝いた！	チームふくしま	NPO法人チームふくしま
2017.01.25	読書と日本人	津野海太郎	福高職員	2017.06.01	あと少しの支援があれば	中村雅彦	斎藤和也
2017.01.25	「私」をつくる	安藤宏	福高職員	2017.06.01	ザ・クロニクル戦後日本の70年 1, 4	共同通信社	共同通信社
2017.02.08	「第14回八番会となかま展」出品作品の記録	福高第8回卒同期会・八番会	春山哲郎(福高8回卒)	2017.07.12	内村鑑三の生涯	小原信	角田勝重(福高14回卒)
2017.02.08	抜萃のつづり 月の七十六	熊平製作所	クマヒラ	2017.07.12	リンカーンの三分間	グレイ・ウィルズ	角田勝重(福高14回卒)
2017.02.27	活版印刷三日月	ほしおさなえ	福高職員	2017.07.12	千畝	ヒレル・レビン	角田勝重(福高14回卒)
2017.02.27	アインシュタイン・シンдрローム	塩見和之	塩見幸子	2017.07.12	天才の栄光と挫折 数学者列伝	藤原正彦	角田勝重(福高14回卒)
2017.02.27	住宅市場と行政法	板垣勝彦	板垣勝彦(福高51回卒)	2017.07.12	七五調源氏物語 9	中村博	中村博
2017.03.10	朝河貫一と日欧中世史研究	甚野尚志, 他	甚野尚志(福高28回卒)	2017.07.12	日本の中世と日向の戦国大名	柳田洋吉	柳田洋吉
2017.03.10	七五調源氏物語 7	中村博	中村博	2017.09.04	犬はびよと鳴いていた	山口仲美	図書部選書実習
2017.03.10	県文学集 第64集 平成28年度版	福島県文化スポーツ局文化振興課	福島県文化スポーツ局	2017.09.04	男尊女卑という病	片田珠美	図書部選書実習
2017.04.05	大学教育再生への挑戦	鶴崎靖夫	昌平賢	2017.09.04	ゴジラとエヴァンゲリオン	長山靖生	図書部選書実習
2017.04.05	The Seed of Hope in the Heart	Teiichi Sato	菅野秀樹	2017.09.04	この嘘がばれないうちに	川口俊和	図書部選書実習
2017.04.05	新・受験技法 2017年度版	和田秀樹	宮武美代	2017.09.04	いまさら翼といわれても	米澤穂信	図書部選書実習
2017.04.05	戦略的思考とは何か	岡崎久彦	宮武美代	2017.09.04	まちがったっていいじゃないか	森毅	図書部選書実習
2017.04.05	東大V5京大	橋本俊昭	宮武美代	2017.09.04	俺たちはそれを奇跡と呼ぶのかもしれない	水沢秋生	図書部選書実習
2017.04.05	古典が面白くなる東大のディープな古文・漢文	田中照彦	宮武美代	2017.09.04	百年たったら帰っておいで	九條今日子	図書部選書実習
2017.04.05	日本建築入門	五十嵐太郎	宮武美代	2017.09.04	幽霊塔	江戸川乱歩	図書部選書実習
2017.04.05	二十四人の東大生が東大合格のコツ詳しく教えます	「東京大学への道」指導会	宮武美代	2017.09.04	彼女の色に届くまで	似鳥裕	図書部選書実習
2017.04.06	志乃夫妻 第拾号	福島中学校校友会	安斎勇雄	2017.09.04	少女は夜を騒がない	逸木裕	図書部選書実習
2017.04.20	海洋白書 2017	海洋政策研究所		2017.10.27	科学立国日本を築く Part2	丸文財団選考委員会	丸文財団
2017.04.20	本当の戦争の話をしよう	伊勢崎賢治	福高職員	2017.10.27	「ごみ屋敷条例」に学ぶ条例づくり教室	板垣勝彦	板垣勝彦(福高51回卒)
2017.04.20	アイシュヴィッツの図書係	アントニオ・G・イトゥルベ	角田勝重(福高14回卒)	2017.10.27	蝦夷・陸奥・歌枕 其の1-其の4	若槻武雄	若槻武雄(福高14回卒)
2017.04.20	英語の質問箱	里中哲彦	岡崎勇	2017.10.27	I A E A 査察官の最前線	川野修晴	川野修晴
2017.04.20	英語に強くなる多義語二〇〇	佐久間治	岡崎勇	2017.10.27	「原子力防災」の経済学	藤堂史明	新潟大学大学院現代社会文化研究科
2017.04.20	国際共通語としての英語	鳥飼玖美子	岡崎勇	2017.10.27	健康生活のための身体活動・スポーツ活用学13講	笠巻純一	新潟大学大学院現代社会文化研究科
2017.04.20	英字新聞1分間リーディング Vol.6	栗原文子	岡崎勇	2017.10.27	七五調源氏物語 10	中村博	中村博
2017.04.20	英語で話すヒント	小松達也	岡崎勇	2017.10.27	新・応用行政法	板垣勝彦, 他	板垣勝彦(福高51回卒)
2017.04.20	英語達人塾	斎藤光史	岡崎勇	2017.10.27	音楽人掃苔録	鈴木宏	鈴木宏(福高44回卒)
2017.04.20	英語達人列伝	斎藤光史	岡崎勇	2017.11.20	わたしの掃苔録 2	鈴木宏	鈴木宏(福高44回卒)
2017.04.20	異文化をこえる英語	鳥飼玖美子	岡崎勇	2017.11.20	希少で絶滅の恐れのあるカンムリウミスズメの現状とモニタリング	大槻都子, 他	大槻都子
2017.04.20	快読100万語！ペーパーバックへの道	酒井邦秀	岡崎勇	2017.11.20	150人のオピニオン VII	海洋政策研究所	笹川平和財団海洋政策研究所
2017.04.20	日本人に一番合った英語学習法	斎藤光史	岡崎勇	2017.12.12	2017年地方自治法改正	板垣勝彦, 他	板垣勝彦(福高51回卒)
2017.04.20	カリスマ同時通訳者が教える英語のツボ	関谷英里子	岡崎勇	2017.12.12	生きるということ	なかにし礼	角田勝重(福高14回卒)
2017.04.20	アメリカの小学生はどう英語を覚えるか	メアリーベス・スーザ	岡崎勇	2017.12.12	在日の涙	辺真一	角田勝重(福高14回卒)
2017.04.20	The Universe of English	東京大学教養学部英語教室	岡崎勇	2017.12.12	総合リース会社図鑑	青山邦彦	日経BPマーケティング
2017.04.20	発音・アクセント問題集 集中マスター	旺文社	岡崎勇	2017.12.12	民法概論 1 民法総則	山野日章夫	高橋俊文(福高38回卒)
2017.04.20	SLUGGING IT OUT IN JAPAN	Warren Cromartie, 他	岡崎勇	2017.12.12	思考を深める探究学習	桑田てるみ	東北地区高等学校図書館研究会

(その他多数の寄贈図書をいただきました)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成29年度 同窓会役員

会長	渡辺 健寿	高17回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	佐藤 隆	高16回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	片平 薫市	高19回
副会長	戸松 哲男	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	熊坂 英二	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
常任理事	渡邊 誠	高25回
監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回

理事	秋原 義弘	高14回
理事	大谷 司	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	鈴木 興一	高16回
理事	渡辺 博美	高17回
理事	横山 純	高17回
理事	木戸 孝志	高17回
理事	小林 勇一	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	斎藤 高紀	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	伊藤 幹夫	高20回
理事	網代 智雄	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	佐々木 孝司	高21回
理事	中田 茂実	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	木村 豊	高22回

理事	菅野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	穂積 寿男	高23回
理事	鈴木 浩一	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	渋谷 修一	高24回
理事	石原 裕人	高24回
理事	高荒 俊勝	高24回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	丹治 正博	高26回
理事	藤森 進	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	鈴木 眞一	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	五十嵐 俊道	高28回
理事	加藤 勇治	高29回
理事	金子 弘保	高29回
理事	土田 淳	高29回

理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	太田 英晴	高31回
理事	樋口 幸一	高32回
理事	藤野 貴	高32回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	渡辺 健二	高33回
理事	手塚 徹	高34回
理事	菅野 剛広	高34回
理事	鈴木 宏幸	高36回
理事	阿久津 順二	高37回
理事	黒森 陽一	高37回
理事	板垣 隆	高37回
理事	三浦 康伸	高39回
理事	日下 直哉	高39回
理事	佐藤 智宏	高39回
理事	引地 孝之	高44回
理事	吉田 大樹	高45回
理事	遠藤 武義	高52回

平成29年度 同窓会事務局員

田中 訓樹	高22回
塩澤 隆	高28回
今関 達也	高28回
鈴木 公一	高32回
国分 聡	高33回
丹治 崇	高36回
渡邊 兼綱	高36回
高橋 文彦	高36回
佐藤 隆夫	高37回
本多 信弥	高40回
中野 勝	高41回
八巻 勲	高42回
菅野 祐智	高44回
松井 暢彦	高53回
菅野 陽介	高54回

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東勝山二丁目22-6
TEL.022-275-2887（落合 敏伸）

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（渡邊 誠）
<http://www.kantobaienkaie.ne.jp/index.html>